

「秀人帰ってたんだけ
冷凍庫にアイスあるよ」



小島詩乃(姉)

(俺黙ってたけど他人の身体を
乗っ取ることができるんだよね♡)

「お友達も勝手に
食べてね」



「ははいっ
お邪魔してますっ」

「お前の姉ちゃん
すげえ可愛いなっ!!」

「どこがだよ」

「俺我慢できねえ
ちよつと寝るわ」

「はあ!？」

「おい起きろって
何しにきたんだよ」

「だめだこいつ
起きねえ」

(だから可愛くておっぱいでかいお前の
姉ちゃんの身体使わせてもらうからな♡
ドスケベすぎるのが悪いんだ♡)



(俺と詩乃は一心同体♡俺のやりたいことが
詩乃のやりたいこと♡会って間もない俺が
詩乃の世界の理解者ってゾクゾクするな♡)

夜まで身体を
弄り回した

「ふう♥何回いったかもう覚えてねえや♥」

「孝晴の姉ちゃんと俺相性最高だあ♥」

「っておいそれこいつの食べかけだぞ!? なにやってんだよ!」

「あっ…」

小島詩乃(20)女子大生
ダイエット中

(やっぱ今俺はこいつの姉ちゃんになってるんだって忘れた食事の続きしちゃったよ)

(腹減ったあ女のオナニっで体力こんな使うんだな)

憑依中

「姉ちゃんまたこいつ寝ちゃってさあ」

「ほ、ほら太郎くんかつこいいから食べかけってご褒美じゃない?(錯乱)」

「はあ!? 彼氏いるのにやばいだろ!! それになんでこいつの下の名前:」

「なんで姉ちゃんが太郎の隣に座るんだよ」

「だって姉弟で並ぶの気色悪いでしょ♪」

「ていうか近くない？
いつのまに仲よくなったの？」

「わたし達のことはいいいから早く何か頼みなさいよ言っとくけどあんたには奢らないからね？太郎くんが特別なだけだから♡」

「ええ…まあ良いけどうーん…？」

詩乃の身体で喋りながらまんこいじるの背徳感やつべえ!!
お前の姉ちゃんと俺机の下で
お互いの股間いじりあってるんだぞ!!

「じゃわたしたちトイレ行くから
注文受け取っておいてね♡」

「はあ!?なんで
二人で行くんだよ!?」

「へへへお姉さんに誘われたら
断れないからよろしくな」

「なんなんだよ…」

「こっそりまんこいじり
すぎて我慢できねえよ♡」

詩乃はほんとドスケベな女だぜ
それでこそ俺の女だよ

ここで一発やりてえけどせっかくの
お楽しみは詩乃の部屋でじっくりとな♡

詩乃のふとももぱんつスカート
ズリで抜いて我慢するかな♡

「うんお母さん
おやすみー」



「さでと帰ったフリして詩乃の部屋に
俺の身体を寝かせておいたんだ♪」

「あそこまでやったら
セックスするしかねえよな♥」

「詩乃のベッドに入るのは
弟のあいっつでもできない
から興奮するぜ♥」

「まあ詩乃の物は全て
俺の物なんだけど♥」

「いっぱいイかせて
やるからな詩乃♪」

「うん愛してるよダーリン♥
なんちゃって♥」

「俺の女おっぱいでかくて
可愛くて良い匂いして
最高の女すぎるぜ♪」



「よし詩乃のパンツ
全部干せたな」

「昨日はセックスしたあとと身体ふたつ使って
パンツせんずりとパンツまんずり堪能したから
詩乃のパンツ汚しまくったんだよなあ」

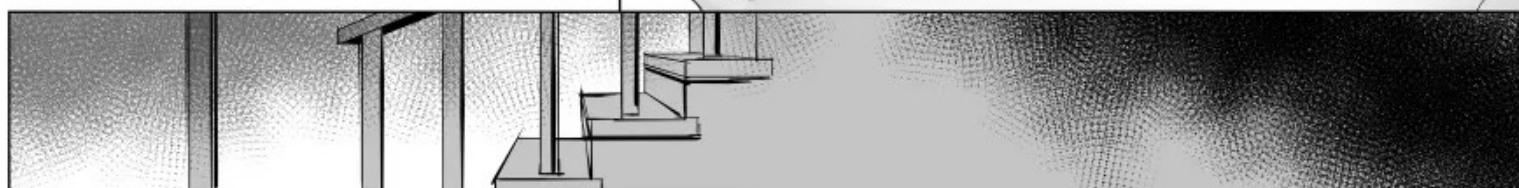
「これから詩乃の部屋は俺たちのヤリ部屋に
なったからいろんなプレイ楽しむぞ♡」







裕貴の姉ちゃんと俺って
相性最高なんだな♡



次の日姉弟は
二人で外食に



奇遇だな
出かけるのか?

太郎? ああこれから
姉ちゃんとファミレス

えっとこの前遊びに
来てた子だよな?



いいなあ俺も
行かせてもらおうかな

昨日その身体でオナニー
したんですよ姉さん♪

えっ……
はひっ!?

いやなんで
お前が……



……太郎くんも行こ
わたしが奢ってあげる♪

いいんですかお姉さん
お言葉に甘えますね

おごるのは太郎くんだけ
だからね あんたは
自分で払いなさいよ

というわけで俺も
行くからよろしくな♪



弟

詩

太

ええ……?





むしろ太郎くんになら
見られたいなんて♡

ひどいねわたし
だったら絶対怒らないのに



クラスの女子が階段登ってたから
パンツ覗いたらブチギレて来てさあ

女ってほんと
意味不明だよなあ



なんの話
してんだよ……

…あつトイレ！
わたしたちトイレ行ってくる



えーお姉さん困るなあー



あんたは注文
受け取っておいてね

なんで二人で
行くんだよ!?





あいつの前で
いきそうになっちまったよ

こいつまじでエロすぎるっ

ガシッ



詩乃セックス
するぞっ!!



もう我慢できねえ



俺の女っ

スト

チキッ

俺の女っ

このっスケベ女っ

詩乃は俺のものだっ

ふあっ♡

あんっ♡

ビクッ

ビクッ

ズキッ

ズキッ

ズキッ

ズキッ

っっ♡

ズキッ

ああんっ♡

出してやるっ
出してやるっ

ビクッ

たっ♡

あっ♡

ズキッ

ズキッ

ズキッ



「はあ〜♡
あつ〜♡い♡」

「これから出かけるのに
汗かいちゃったあ〜♡」

「ねえ太郎くんわたしの匂い
嗅いで確認してくれない?」

太郎
分魂憑依中

部屋でブラジャー
抜いてノーブラ

「ごとも嗅いで
ほしいなあ〜♡」

「スーハー」

「ス〜…
ハ〜」

「へへっお姉さん
わかりました〜」

「くんくん」

「くんくん」

「んっ♡」

「あ〜良い
匂いっすね〜」

「おい何して
んだよっ!」

「あ〜これは
たまらないっすね〜」

「お前らほんとに
何してんの?」

「めっちゃ女の子の
匂いするんで
大丈夫っすよ〜」

「太郎くんに褒め
られて嬉しい〜♡」

「そうだあんた牛乳
買ってきなさい」

「はあ？
なんでだよ」

「いいから
行きなさいよ」

「お金あげるからほら」

「つたくわかったよ
なんなんだよもう」

「あつ太郎くんは
行かないでね♡」

「わりいな俺はお姉さんと
留守番しておくからさっ」

「ooooo」

「あいつの前で弄つてたから
詩乃の身体が俺のちんこを
ほしがって困るぜ♡」

本体の乳首舐めと運動して
詩乃の舌も動いてる

「何度も乗っ取ってるけど
本当にいい女だよお前は♡」

「あいつが帰ってくるまでに
詩乃のまんこを俺のちんこで
悦ばせてあげないとな♡」

「この身体誰にも渡したくないしもう
詩乃と結婚しちやおっかなあ♡」

はい

ガチャ

ひわたり かなな
日渡 栞菜

……って

なんでお前が裕貴の家にいるんだよ!

あんたが来るなんて裕貴から聞いてないわよ

なにその服ダッサ

お前ら付き合ってたんだな

はあ~~~~!!?

今日はたまたまご両親とお姉さんがいなくて……いっしょに勉強してただけで……

ドキッ

裕貴は飲み物買いに行ってるだけで……

まだわたしたち手しかつないでないし……

なーんだお姉さんいないのかよ……

じゃあ今日はお前にしよっかな

ちよっとなにな!!?

やっやめ……

て





他人の身体に憑依
することができる

いつもは裕貴の姉
詩乃の身体でオナニー
したりセックスしたりと

女体ライフを
楽しんでる



俺の名前は太郎

ごめん太郎のぶんは
買ってなくて...

おっおう
頑張れー

さっやろっか
うんっ!!

ストレイ



今日はこいつで
遊ぶとするかな

ジュースいいなあ
俺も喉乾いたんだよなあ



帰ってくんの早えよ
身体まだ弄りきれてねえー
おっぱい揉んでおこ

今はこのカンナに俺の魂を
半分憑依させて操っている
器用だろ? 結構難しいんだぜ

ニヤニヤ





太郎あんた
拾いなさいよ

はあ!?
自分で拾えよ

この写真バラ
まいてもいい
んだけど?

嫌な女だぜ
仕方ねえな

5

よししまんこ
見ちゃうぞ

さっきまで弄り回し
てたから濡れてるぜ
まんこエッロ

ニヤ

ったく
わかったよ!

今日からあんたは
わたしの犬だから♡

ニヤ

太郎あんた
舐めなさいよ

はあっ!?

カンナっ!?

スッ

タオル
もってくるよ

ごめ〜ん
こぼしちゃった♪

お前って
ドジだなあ

裕貴まって
大丈夫



もう入って
いいわよ♪

くっそっ
この女っ

じゃーん
どうかしら♪

本当に
着替えたのか…

見てわたしのパンツ
履かせたの
恥ずかしいでしょ

カンナのっ!?
やりすぎだって!!

裕貴同情しないでくれ
俺はいいんだ…

ザバツ

X
k

乾いたら返してもらおうからね
わたしの服で反省しなさい♪

俺はお前の
奴隷かよっ

そうよ!

女の子の服着せられるなんて
女の子のあんたにとって拷問よね♡

しかもわたしがさっきまで
着てたから人肌の温もり
気持ち悪いでしょ♡

なにやって
るんだよ…

今はあんたが日渡葉菜
なんだから代わりに
勉強しなさい♡

この女っ…
カンナ…

あっ♡
そこ違うっ♡

んっ♡

そこもっ♡

SEX
fuck

いくっ♡

あっ♡

あうっ…

感覚共有

……？

カンナのパンツには
俺の精液がたっぷり

俺のパンツには
カンナの愛液がしっとり

また履き替えるの
楽しみだぜ♪

じゅわー

たぷー

つづく…？

ちよっ
ちよつと
太郎
トイレ!!

ふうー

あぶねりカンナのパンツ
小さいから精液漏れる
ところだった

カンナのブラジャー
着替えた時に隠し持っていた

トイレでシコってるのが
カンナの身体に共有される

おい太郎と服の
交換なんてやっぱ
おかしいだろっ!!

しかも下着
までっ…!!

太郎がイくと
カンナもイく

今日のカンナ
変だぞ…

射精の余韻が
カンナのまんこに
伝わってる

ねえ着替えるから出て
行っって欲しいんだけど

お前らそんな仲じゃ
ないだろ!? 家族でも
おかしいからな!!

太郎が来てから
姉ちゃんも変だし
お前なんなんだよっ

裕貴が嫌ならせまい
トイレに二人っきりで
入っちゃおうかな♡

それとも女の子の
トイレ覗きたいの?

うわゝ
変態♡

ギョウ

なんだよ
もう...

何言ってんだよお前の
姉ちゃんが俺に惚れた
だけだろ嫉妬か?

なにや...

5分じゃエロいこと
なんもできねえ♡

すりすり...

最後はお互いの身体を
こすりつけあって♡

でも5分なっ!!
5分で着替えろよっ!!

あいつがうるさいから
さっさと着替えますかー♡

本当のお楽しみは
このあとで……♡

うわー俺のパンツずいぶん
愛液でぬらしてくれたな

このスケベ女め♡



愛液が糸引いてるよ
エツロ……♡

いった女体の素肌に
空気が触れるの
気持ちいいぜ♡

カンナお前の身体
気に入ったぞ

今日からお前も
太郎ガールの一員だ♡



うわあー
くっさ♡

んぎょ

むわー

ドキ

べっとり
マーキング
したな♡

ドキ

これを今からカンナが
履きまゝす♡

やっぱ
これ♡

精液を吸い込んだパンツが
カンナのまんこにぴったり
貼り付いてくれる♡

ニヤ

ニヤ

ドキ

ドキ

ゴムのびちゃったけど
これならズリ落ちないな♡

ぴた♡

あとでたっぷり注ぎこんで
やるから今はこれで
我慢してくれよカンナ♡

ドキ

ス
ル
ッ

あっ♡

ス
チ
ュ
ン
ッ

へえ〜

お前でもちゃんと
女の子の部屋
してるんだなあ〜

この部屋に入った男は
太郎が初めてなんだよ♥
他の男が近づかないように
太郎の痕跡いっぱい残してね♥

って言わせ
たりして♥

そうだ♥
本当はどう
思ってるかな〜♥

ん〜♥
記憶を
読んで〜♥

そんな最低男にお前は
身体を使われてんだっ♥

服交換して
俺の精液吸い込んだ
パンツ履いてるんだぞっ♥

最悪っ!!
なんでこんな最低男が
わたしの部屋にいるのよ!!

裕貴だって子供の時にしか
来てないのにっ!!

ふーん…

俺のこと大好きなド変態
じゃないとできねえよなあ♥

さつきは犬扱いして
ごめんなさい♡
犬なのは間抜けな
わたしですう♡

ひわたりかなな
わたし日渡 葉菜は
太郎様の犬ですう♡
どんな命令も
従いますう♡

よしし
よしっ

ガシッ
ガシッ

きやう
うん♡

カンナを犬にする
プレイをしたり

わたしのベッドで
寝るなら犯されても
文句言えないわよね？

スケベ女が
襲っちゃ
うわよ♡

ドキ♡

ドキ

ドキ♡

ドキ♡

この毛布の中に入ったら
わたしの性欲が尽き果てる
まで出られないからね♡

ああんっ♡

あんっ♡

あんっ♡

うわゝ
変態だゝ
ニヤニヤ

逆レ○プ
させたり

カンナのベッドで俺たちは
一つの生き物としてぐっちゃん
ぐちゃに交わった

お互いの匂いが
同じになるほど

そうだいいいこと
思いついたわ♡

わたしのこの部屋を
太郎専用のやり部屋に
しましょう♡

学校の女子を
女のわたしが
連れ込んでえ♡
それを太郎が
犯しまくるの♡

よしカンナこれから
俺のために働いてくれ♪
お前に恋してる暇なんて
ないからな♪

は♡い♡
裕貴のことなんて忘れて
女を献上していきま♡す♡

中出ししまくったあと
カンナの下着入れにも
記念に射精してみた

お前の全てが
俺のもんだぜ♪



「太郎今日こそ
決着をつけるわよ!」

「いっしょに
勉強するんじゃ...」

「女の意地をかけた
戦いだから先に
帰ってて!」

分魂憑依で
仲悪い演技をして

「カンナの一日の体臭が
しみこんだブラとパンツっ♡」

「お前の身体
手放さないからなっ♡」

「制服でもお前は
エロいんだからっ♡」

「ハメまくってやる♡」

隠れてめっちゃ
セックスする

スーハー
スーハー

スーハー
スーハー

